

整理番号：kinseimatec-2

作成日：2022年3月17日

安全データシート（SDS）

1. 化学品及び会社情報

製品名：純鉄粉(S 9 1 稲作種子コーティング鉄粉)

会社名：全国農業協同組合連合会

住所：東京都千代田区大手町一丁目 1-3-1 J A ビル 33F

担当部門：耕種資材部

電話番号：03-6271-8285

F A X 番号：03-5218-2536

緊急連絡番号：03-6271-8285

本製品に関するその他の情報については、次ページ以降の安全データシート(SDS)

「純鉄粉」(J F E スチール株式会社作成)を参照してください。

安全データシート(SDS)

1. 製品及び会社情報

製品の名称	純鉄粉	
会社名	JFEスチール株式会社	
住所	東京都千代田区内幸町2丁目2番3号(日比谷国際ビル)	
担当部門	東日本製鉄所(千葉地区) 商品技術部 鉄粉室	
電話番号	043-262-2500	
緊急連絡先	043-262-2500	
FAX番号	043-262-2988	
作成・改正日	作成:2001.09.06	改:2014.9.3

2. 危険有害性の情報

◇GHS分類

可燃性固体:区分外

◇GHSラベル: なし

<注意書き>

(安全対策)

- ・使用前に取り扱い説明書を入手すること(P201)
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと(P202)
- ・粉じん/ミストを吸入しないこと(P260)
- ・取り扱い後は手をよく洗うこと(P264)
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと(P270)
- ・環境への放出を避けること(P273)
- ・保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること(P280)

(応急措置)

- ・眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること(P305+P351+P338)
- ・取り扱い後はよく手を洗うこと(P264)
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診断/手当てを受けること(P308+P313)
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること(P308+P311)
- ・眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること(P337+P313)
- ・気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。(P314)

(保管)

- ・換気の良い場所で保管すること(P403)
- ・施錠して保管すること(P405)

(廃棄)

- ・内容物/容器を国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること(P501)

3. 組成, 成分情報

単一製品・混合物の区別 単一製品

成分および含有量

化学名または一般名	化学式	成分範囲(重量%)	アメリカ化学登録番号CASNo.	労働安全衛生法政令番号	PRTR法政令番号・種類
鉄	Fe	90%以上	7439-89-6	該当なし	該当なし

注 1)上記主成分以外に微量成分(炭素、シリコン、リン、硫黄、窒素等)を含む。

2)成分値は上記成分範囲において、銘柄規格により異なるので、詳細はミルシートを参照のこと。

4. 応急措置

目に入った場合	直ちに水で数分間洗眼する。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は、外す。除去できない場合は医師の診断または手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	多量に付着したとき、人によって発汗時の接触で炎症を起こす場合があるので水洗を行う。炎症が出た時は医師の診断または手当てを受ける。
吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させる。必要に応じて医師の診断または手当てを受ける。
飲み込んだ場合	水でよく口の中を洗浄し、必要に応じて医師の診断または手当てを受ける。

5. 火災時の措置

消火方法	放水または消火器あるいは乾燥砂により消火
------	----------------------

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	保護具は8に従い、用意する。
保護具および緊急時措置	作業者は、速やかに保護具を着用し、人体への吸入、付着等を避ける。
環境中に対する注意事項	環境中への放出は行わない。 河川等に排出され、環境へ影響を起さないように注意する。
回収	真空掃除機などにより回収し、容器等にに入れて2次漏洩を防止する。

7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い	
技術的対策:	8に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気:	8に記載の、局所排気／全体換気を行う。
安全取り扱い注意事項	周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために、排気用の換気をおこなう。 粉末をホッパー、貯蔵庫、容器、混合機にフレコンから移す作業をする場合は、適切な保護具を着用する。 また、粉塵が発生する場合は、必要なカバー等の措置を行う。 吊りロープ、吊り紐、フレコンが損傷すると、破袋、落下の恐れがあるので、取り扱いに注意する。 特に、フォークリフトでフレコンを吊る場合には、フレコンの吊りロープを切断しないように爪の角にゴムなどのあて物をして養生する。 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために、排気用の換気をおこなう。
接触回避	10. 安定性および反応性参照
保管※	
技術的対策:	取り扱うために必要な照明、換気設備を設ける。
混触危険物質	10. 安定性および反応性参照
保管条件	フレコンは重量物のため、段積み、ラック積み、他の置き方での転倒、荷崩れ、落下に注意する。 水漏れ、酸、アルカリもしくはそれらを含んだ物質との接触を避ける。 また、高温多湿の環境もさける。必要であれば、雨水浸透防止、錆防止用のシート、カバー、覆いをおこなう。 ※通常の状態、上記未実施の場合でも危険有害性の面で該当事項はない。
容器包装材料	内袋をいれたフレキシブルバックや紙袋、缶等の容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度

成分	化学式	アメリカ化学登録番号 CASNo.	日本産業衛生学会	AGCIH*1
			許容濃度 (mg/m ³)	TLVs-TWA (mg/m ³)
鉄	Fe	7439-89-6	-	-

注1)NITE HP/化学物質総合情報提供システム(CHRIP)検索結果

注2)表中の“-”は、区分外又は分類できないことを意味する。

*1 American Conference of Governmental Industrial Hygienists; 米国産業衛生専門家会議

*2 (I);Inhalable fraction (R);Respirable fraction

*3 Dust and mists, as Cu

*4 Fume

設備対策	適切な換気対策を実施し、作業環境を確保し、発塵の多い場合は、局所排気装置を運転する。 防爆の電気、換気、照明機器を使用する。
保護具 呼吸用保護具	安全帽子、ヘルメット、保護手袋等を着用し、発塵の多い場合は、防塵マスクの着装が望ましい。 必要に応じて防塵性のエプロンや保護服を着用する。
保護眼鏡	保護眼鏡の着装が望ましい。
衛生対策	取り扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

物理的性質	形状	粉末
	色相	ねずみ色
	臭い	無臭
物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲	融点	1535℃(鉄)
	比重(密度)	7.87g/cm ³ (鉄)

10. 安定性及び反応性

安定性	一般の環境下では安定している。
危険物有害反応可能性	酸、アルカリなどの化学物質と接触すると、有害なガス発生の原因となる可能性がある。
避けるべき条件	空気とある比率で混合し、そこに着火源があると粉塵爆発の危険性があるので、注意する。
混触危険物質	強酸化剤、強酸
危険物有害のある分解性性物	通常の手扱い条件下では発生しない。

11. 有害性情報

有害性項目	[Fe]
急性毒性	—
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	—
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	—
呼吸器感作性又は皮膚感作性	—
生殖細胞変異原性	—
発がん性	—
生殖毒性	—
特定標的臓器毒性, 単回ばく露	—
特定標的臓器毒性, 反復ばく露	—
吸引性呼吸器有害性	—

注1) NITE HP/化学物質関連情報/GHS関連情報検索結果

注2) 表中の“—”は区分外又は分類できないことを意味する。

12. 環境影響情報

有害性項目	[Fe]
水生環境有害性(急性)	—
水生環境有害性(慢性)	—

注1) NITE HP/化学物質関連情報/GHS関連情報検索結果

注2) 表中の“—”は区分外又は分類できないことを意味する。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

産業廃棄物に関する法律、都道府県または市町村が定める関連条例の規則に従い、環境に配慮した適切な方法で処分する。

汚染容器および包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、残余廃棄物と同様に、産業廃棄物に関する法律、都道府県または市町村が定める関連条例の規則に従い、環境に配慮した適切な方法で処分する。容器をリサイクルするか、廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

14. 輸送上の注意

輸送に関する通常の取り扱いでは、危険はないが、直射日光や雨濡れ、水分から避けて積み込むこととし、荷崩れ防止にも配慮する。
さらに、容器からの漏れがないように注意する

15. 適用法令

労働安全衛生法

PRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)

16. その他の情報

参考資料等

GHS対応－化管法・安衛法におけるラベル表示・SDS提供制度

(平成24年10月 経済産業省、厚生労働省)

- ・JIS Z7253:GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
- ・独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)ホームページ
- ・職場の安全サイト(厚生労働省)
- ・日本産業衛生学会勧告値、OSHA PEL、ACGIH TLV等
- ・労働安全衛生法
- ・PRTR法(特定化学物質の環境への排出量把握等及び管理の改善の促進に関する法律)

本化学物質等安全性データシートは、現時点で入手できる資料、情報に基づいて作成しております。弊社製品を取扱う事業者には化学的に安全な取扱いを確保するための参考情報として、提供されるもので、安全性の保証書ではありません。

取扱う事業者は用途・用法に適した安全対策を講ずることが必要であることをご理解のうえご活用願います。

以上